

日刊 CARGO

物流総合紙

Daily CARGO Transport & Logistics News

2013年(平成25年)

8月20日
火曜日

第10725号

月曜～金曜発行(祝日を除く)
購読料:1ヵ月8,400円(税込)
(昭和44年9月30日 第三種郵便物認可)

http://www.daily-cargo.com/

イーソーコ総合研究所
経営企画室

鹿野島 智子

東京を中心に倉庫をリノベーションしたお洒落なギャラリーやカフェが増えていることをご存知だろうか。休みの日に、そういったギャラリーで絵画

My hobby

などの芸術作品を鑑賞したり、カフェでコーヒーを飲んだりして楽しんでいる。きっかけは、当社グループが行っている倉庫リノベーション

変質なことだと思っている。

倉庫リノベーションのお勧めは、東京都中央区日本橋馬喰町にある現代アートギャラリー「レントゲンヴェルケ」。ギャラリースト・池内務氏の確かな審美眼にかなったアーティストの企画展が定期的に開催されている。池内氏の解説を聞き、さまざまな作品に触れるうちに、アーティストの技術力の高さと紡ぎ出される物語の世界の面白さに目覚めた。

また、同じく中央区にある「アーキテクトオフィス」もお勧め。築約80年の3階建ての倉庫を建築家の石川雅英氏が、自身の事務所とギャラリー、打ち合わせスペースを兼ねたカフェとし

倉庫リノベーションで広がる世界

ン事業。倉庫をクリエイティブなオフィスやスタジオに生まれ変わらせている。仕事から見学することが多く、現代アートやインテリア、建築についても興味を湧いてきた。仕事をしながら、新たな趣味を発見することができ、大

てリノベーション。1階のカフェでは、本物のアンティークの北欧家具に座って、こだわりの「炒りたて」コーヒーを楽しむことができる。カフェに置かれている建築に関する書籍を読みながら、ゆったりと過ごし、趣味と実益を兼ねて情報収集をしている。

レントゲンヴェルケにて。
背後の作品は、満田晴穂氏の「自在麝香揚羽」



倉庫リノベーションで活用される倉庫は、築年数のたったビンテージ倉庫が好まれることが多い。池内氏や石川氏、その他多くの人が口をそろえるのは、ビンテージ倉庫には、新しいものにはない味わいと物語があるという。倉庫の奥深さを知った時でもあり、倉庫の素晴らしさを多くの人に伝えていきたい。